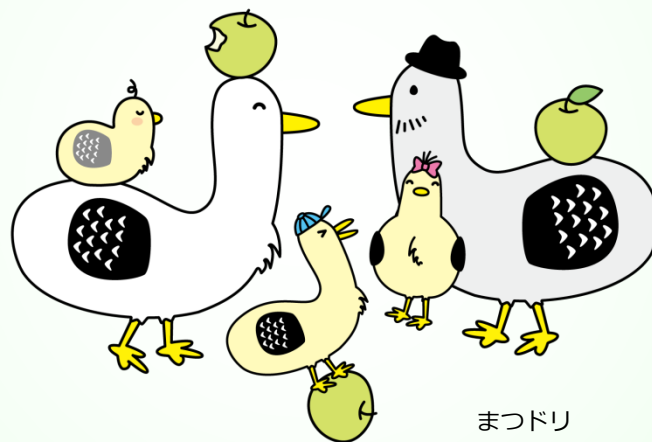


孤独・孤立に関するフォーラム

テーマ：子育て

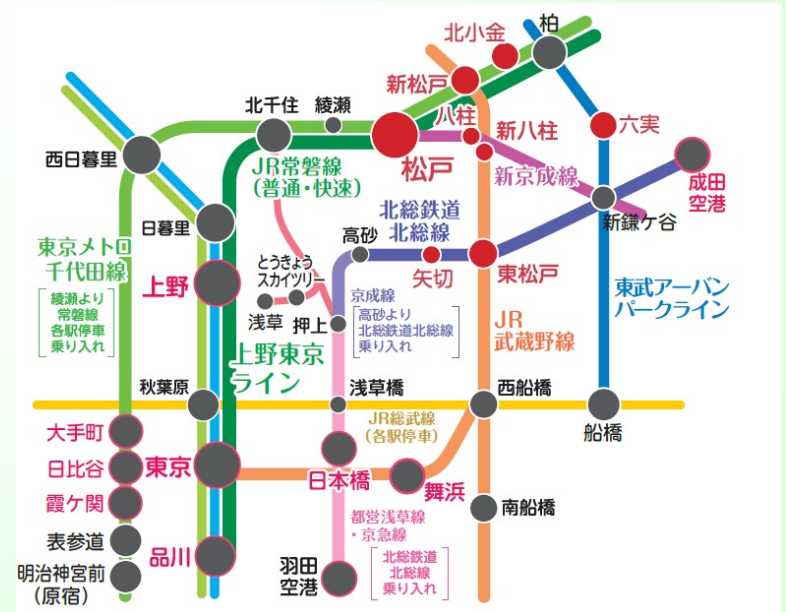


令和3年6月24日（木）17：20～

松戸市長 本郷谷 健次

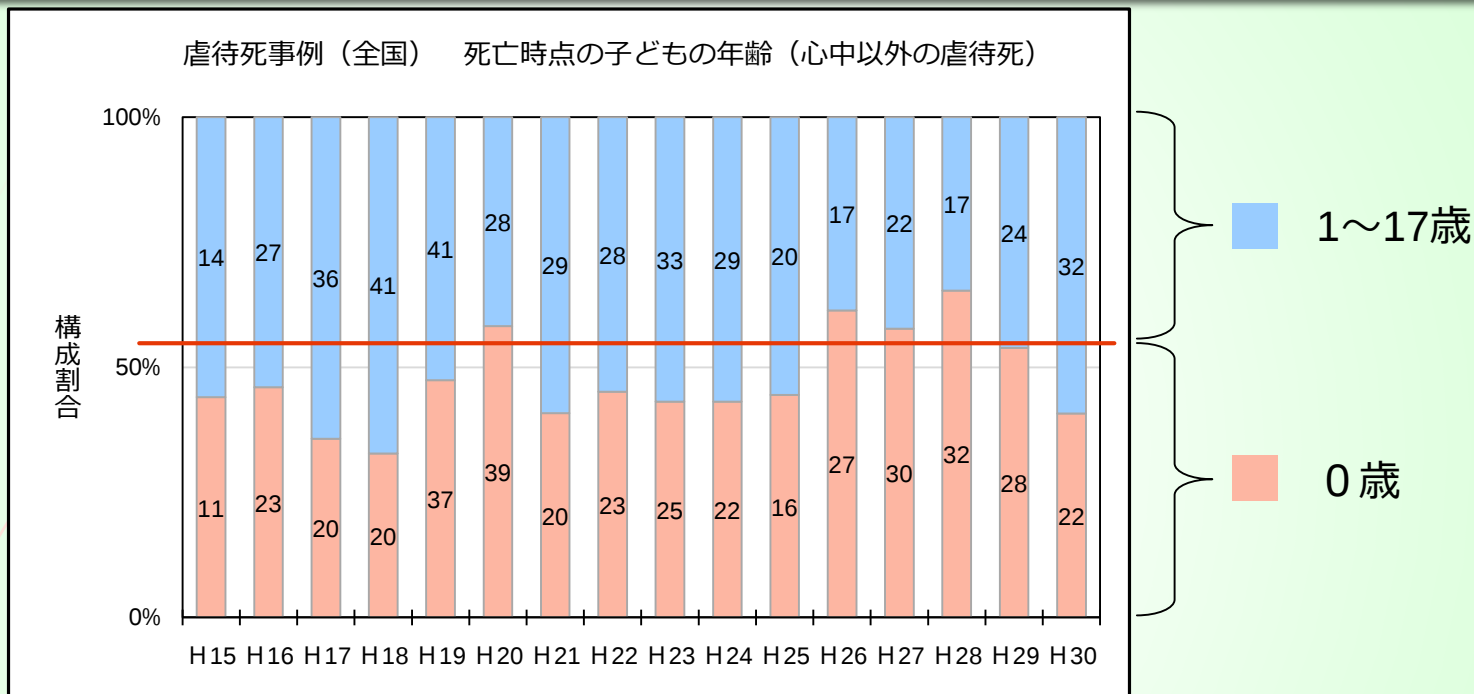
松戸市の概要

- 松戸市は東京都に隣接し東京駅までJRで25分。通勤に便利で都内に勤めるサラリーマン、特に若い世代が多い。
- 市の最重要政策は「子育て支援」。人口は年々増加し現在約50万人。
- 日経DUAL「共働き子育てしやすい街ランキング」において、2020年 全国1位を受賞。



テーマ 1

- 子どもの虐待死事例の約半数が0歳児。多くは生後1カ月未満。
- 主たる加害者が実母であるケースが多い。



※グラフ内の数値は人数（1～17歳は不明を含む）※H15は7/1～12/31の6か月間
出典：社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会

背景に育児不安、経済不安、近くに親族がいない、夫の帰宅が遅い等
妊産婦の孤立化



妊産婦への支援強化

現在の妊産婦支援

◎親子の健康維持・増進

妊婦健康診査や産婦健康診査助成（R3.10開始予定）、乳児健康診査などにより、出産前後の親子の健康をサポート

◎産後のお母さんの心身ケアと育児支援

産後ケアや乳児家庭全戸訪問などにより、出産後の新生活をサポート

◎専門職による相談支援

保健師、助産師、社会福祉士の専門職が常駐し包括的に相談対応をする親子すこやかセンターなどで妊娠・出産から子育て期まで切れ目のない支援を実施

◎出産・育児の情報発信

- ・LINEを通じた育児情報の発信
- ・スマートフォン向け子育てアプリを提供（電子母子手帳）

今後の妊産婦支援強化案

状況把握の機会を増やす

◎0歳児親子の健康支援を強化

- ・産後ケア実施形態の多様化
（医療機関以外（ホテル等）との連携）
- ・乳児健康診査回数の増（6～7か月健診を追加）
※年3回実施

妊産婦の負担を減らす

◎産前産後の家事・育児支援を強化

- ・全国共通のサービス利用券（妊産婦バウチャー）の導入

家事・育児参加者を増やす

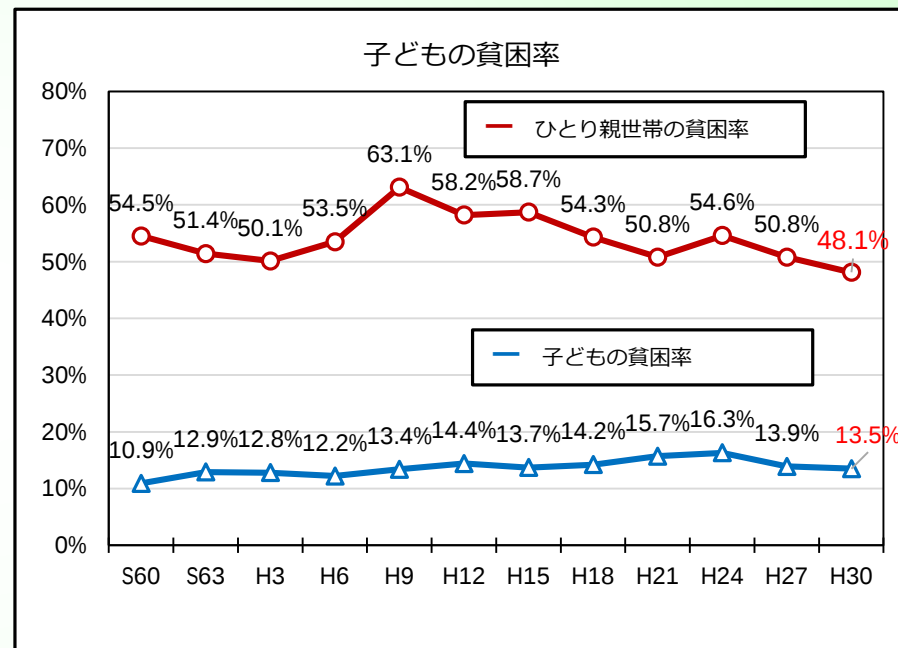
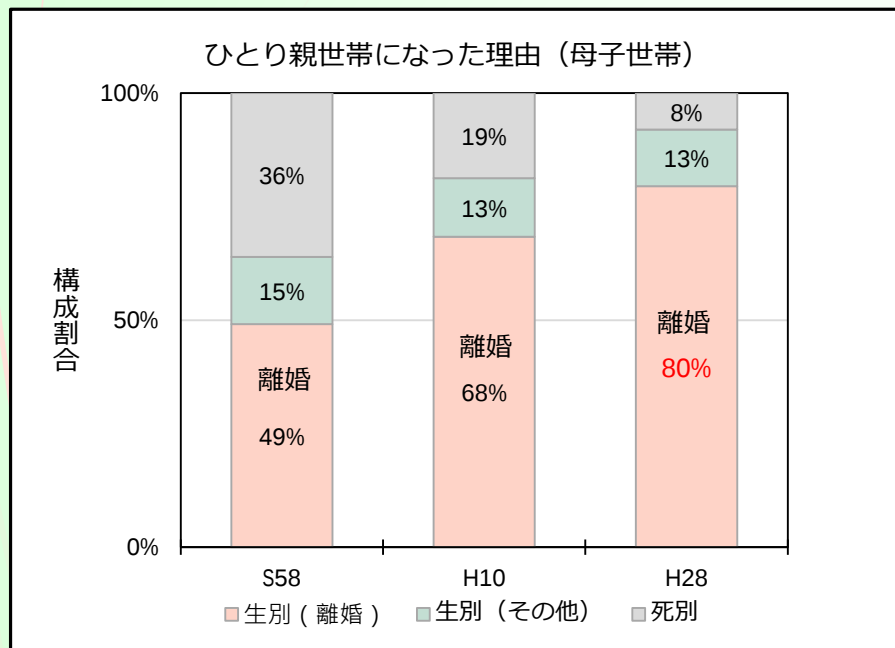
◎親の育児休暇・育児時間取得制度の普及促進

- ・父親の育児参加の促進
- ・在宅での短時間勤務（テレワーカーの育児参加）

みんなでお母さんと赤ちゃんを支える

テーマ 2

- ひとり親になった理由の80%以上が離婚という現状
- 平成30年実績において、子どもの貧困率（18歳未満）は13.5%と7人に1人が貧困状態
そのうち、ひとり親世帯の貧困率は48.1%と約半数が貧困状態



経済的困難を抱えながら子育ての悩みをひとりで背負う毎日



ひとり親家庭への支援の強化が重要

現在のひとり親支援

◎養育費の確保

- 離婚前後の養育費等相談支援を拡充
- 養育費をもらえていないひとり親世帯に給付金を支給

◎経済的支援・学習支援

- 「ひとり親世帯への緊急支援給付金」を支給
- 「ひとり親家庭学習支援事業」を利用し、学習意欲が高く基礎学力以上の学力取得を目指す児童・生徒に学習塾の費用の一部を助成

◎自立支援

- 就労に必要な資格技能習得のための受講経費の助成、母子・父子自立支援プログラム策定員による就労支援で児童扶養手当受給者の自立を促進
- ひとり親家庭が抱える様々な問題に専門の相談員が支援を実施。
- ひとり親家庭のためのライフプランセミナーや交流会、オンラインによる個別相談、おしゃべり会、情報提供等を実施する「ひとり親応援フェスタ」を開催

今後のひとり親支援強化案

◎離婚社会を前提とした支援体制の強化

- ひとり親になっても自立して生活できるスキルの習得・意識の変革
- ひとり親の優先雇用・法定雇用、会社を辞めずに子育て・復職できる仕組みづくり

◎社会全体でのひとり親支援強化

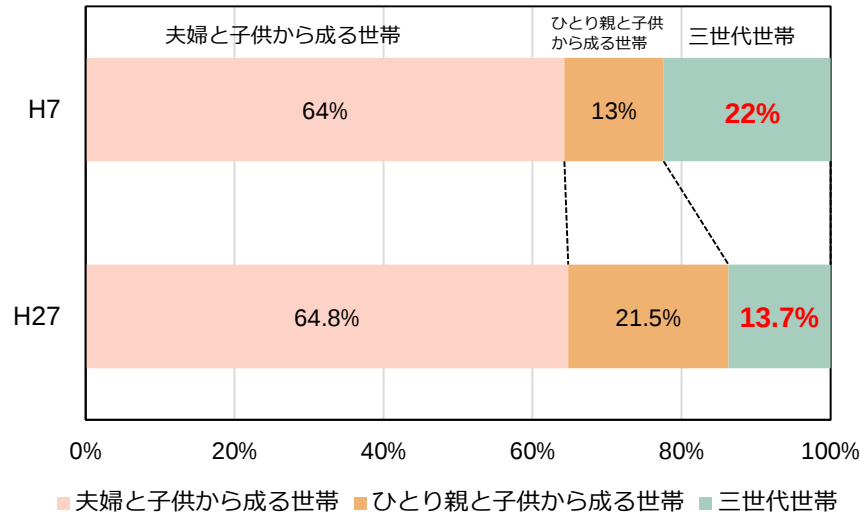
- ひとり親家庭が利用できる家事・育児利用券（バウチャー制度）を全国で
- 児童扶養手当の充実

社会の仕組みを変える

テーマ 3

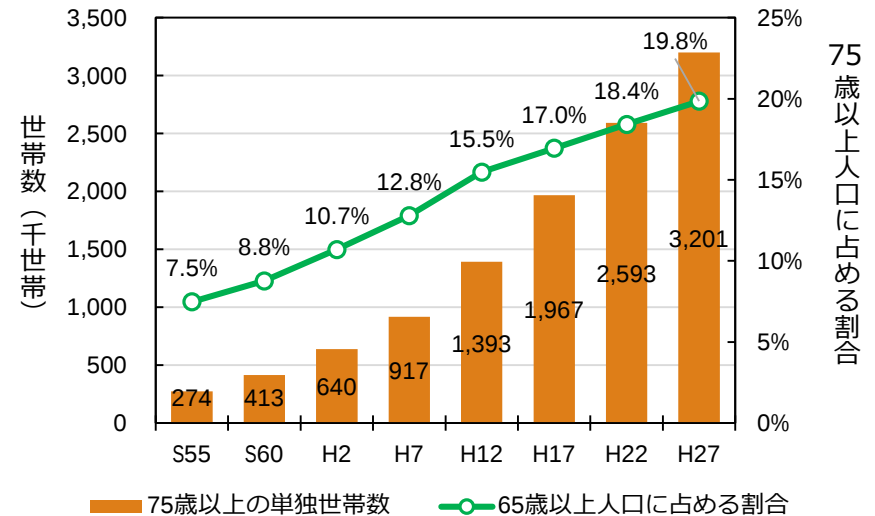
- 核家族の子育て世帯が増加。三世帯世帯が減少。
- 高齢者の単独世帯が増加

子育て世帯における三世帯世帯の減少



出典: 国勢調査(総務省)

(参考) 75歳以上の単独世帯数の推移



出典: 国勢調査(総務省)

家族形態が大きく変化。
郷里を離れての核家族が多いため、孤立した子育てになりやすい。



身近な場所で居場所づくりを推進

現在の居場所づくり

◎乳幼児

地域子育て支援拠点（おやこDE広場）
児童館

◎小学生

児童館
放課後児童クラブ
放課後子供教室

◎中高生

児童館
青少年プラザ（松戸市中高生の居場所）

など

今後の居場所づくり案

◎多世代が集える居場所づくり

- 世代を問わず、何かあれば集まれる場所
- 子ども食堂を地域拠点としての居場所に。
1小学校区に1つ。

あらゆる世代が社会とのつながりをつくる

まとめ

子育ては、家庭や親だけが担うのではなく、社会みんなで
支え合う、助け合うものだと思っています。

「子育て」が「孤育て」にならないように。